



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
 （奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 奈良県結核患者情報（平成 24 年 9 月） New
- 保健環境研究センター 10 月便り② New
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 9 月） New



（調査週）平成 24 年 第 42 週 10 月 15 日（月）～10 月 21 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.43	→～↑	→	↑	↑
2	RS ウイルス感染症	1.03	→～↑	→～↑	→～↑	↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.37	→	→～↑	→	↓
4	突発性発しん	0.34	→	→～↓	→～↑	↓
5	水痘	0.23	→	↓	↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は62例で、前週報告の68例からやや減少。上位 5 疾患は、①RSウイルス感染症、②感染性胃腸炎、③A群溶連菌咽頭炎、④手足口病、⑤突発性発しんの順となり、第41週からはRSウイルス感染症が感染性胃腸炎と入れ替わって第1位となった。A群溶連菌咽頭炎の報告数（7例）は、ほぼ倍増。RSウイルス感染症の報告数（24例）は、やや増加。手足口病の報告数（5例）は、横ばい。突発性発しんの報告数（4例）も、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（18例）は、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内共になかった。

奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかったが、奈良市HC管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が1例報告された。

(村井 記)

県北部外来状況 3週前よりRSウイルスによる気管支炎が保育園の乳幼児で大流行している。感染力は強いので、あっという間に全員感染してしまい、すぐ収束するが、別の保育園に飛び火した流行している。発熱期間は長くて4-5日、以前に感染の既往のある子は1-2日で解熱している。他にはケンケンした犬の遠吠えに似たクループ様の咳と発熱のウイルス性のかぜがこれも保育園の年長児に流行している。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、74例から101例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、突発性発疹、水痘、咽頭結膜熱・A群溶連菌の順であった。感染性胃腸炎は、41例から58例と増加し、RSウイルス感染症は、7例から12例と増加傾向である。基幹定点からは、葛城保健所よりマイコプラズマ肺炎1例の報告があった。眼科定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県中部外来状況 外来数は多くない。ごく軽症の感冒が主。発生動向順では、感染性胃腸炎は嘔吐の例、嘔吐なしの下痢の例など種々、軽症。RSウイルスもそう多くない。咽頭結膜熱はなかった。迅速では殆ど陰性判定であったが、発熱、咽頭所見、発疹を認めるA群溶連菌感染症の姉弟例があった。その他の登録疾患はなかった。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第41週→第42週)は13例→10例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(6例→9例)、②マイコプラズマ肺炎【基幹定点】(1例→1例)であった。

(柳生 記)

県南部外来状況 ワクチン接種者を除けば外来数は少ない。鼻汁、咳の軽い感冒症状が主。感染性胃腸炎はノロ疑い例や細菌性疑いなどが少し見られる程度。その後RSウイルス疑い例も目だって増加なく、その他登録疾患も認めない。

(山本 記)

【奈良県結核患者情報】

奈良県感染症情報センターでは結核患者発生動向情報を提供しています。
今回は9月の新規届出状況をお知らせします。

表. 結核届出数 (平成24年1月～)

市町村	9月	総計	
北和	奈良市	8	79
	大和郡山市	3	17
	天理市	1	25
	生駒市	4	22
	山添村		
	平群町		8
	三郷町	1	4
	斑鳩町	1	9
	安堵町		1
中和	大和高田市	4	16
	御所市		6
	香芝市		17
	葛城市		6
	上牧町	1	1
	王寺町		3
	広陵町		4
	河合町	1	5
	橿原市	8	41
	桜井市	1	9
	宇陀市		4
	川西町		1
	三宅町		
	田原本町	1	10
	曽爾村		
	御杖村		
	高取町		1
	明日香村	1	3
	南和	吉野町	1
大淀町		2	6
下市町		1	3
黒滝村			
天川村			
下北山村			
上北山村			
川上村			1
東吉野村			
五條市		2	9
西吉野村			
野迫川村			
十津川村		1	
合計	41	316	

(10月16日現在)

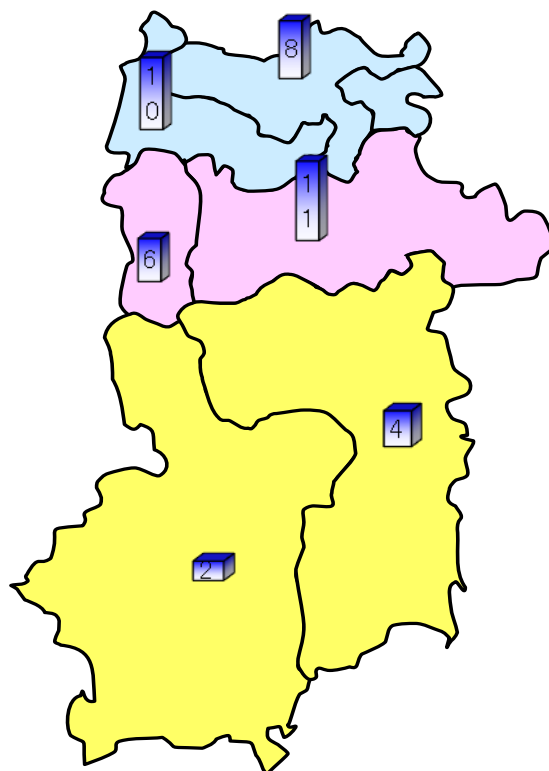


図. 保健所別届出数 (平成24年9月受理分)

(感染症情報センター 記)

【保健環境研究センター10月だより②】

～ノロウイルスに注意して!!～

●ノロウイルスは、冬季に多く発生がみられるウイルス性胃腸炎の主な原因ウイルスで、記憶に新しいところでは2006年に大きな流行がありました（図1）。

●ノロウイルスは食中毒の原因ウイルスとして知られており、加熱不十分な二枚貝やウイルスに汚染された食品の喫食により引き起こされます。当センターではノロウイルスを検出した食中毒事例が2006年の最盛期には6～9事例/月ありましたが、関係者の意識向上が図られたこともあってか、その後は0～2事例/月と低く推移しています（図2）。

●また、ノロウイルスは経口感染によりヒトの小腸で増殖し、吐物や糞便とともに排泄され、手指等を介してヒトからヒトへ感染します。昨シーズンは集団感染事例28事例からノロウイルスが検出され（図2）、依然として集団生活の場での感染防除が公衆衛生上の重要な課題となっています。

●当センターのこれまでの検査結果から、直近3シーズンの流行の始まりは11月に入ってからであったと考えられます（図2）。そろそろ、ノロウイルスに注意が必要な季節になったと考えられるのではないのでしょうか？手洗いなど感染予防に努めて、今後の本格的な流行に備えましょう。

●最後になりましたが、ノロウイルスの流行予測には平時の監視が重要です。病原体定点医療機関の先生方には、引き続き検体採取のご協力の程よろしくお願い申し上げます。

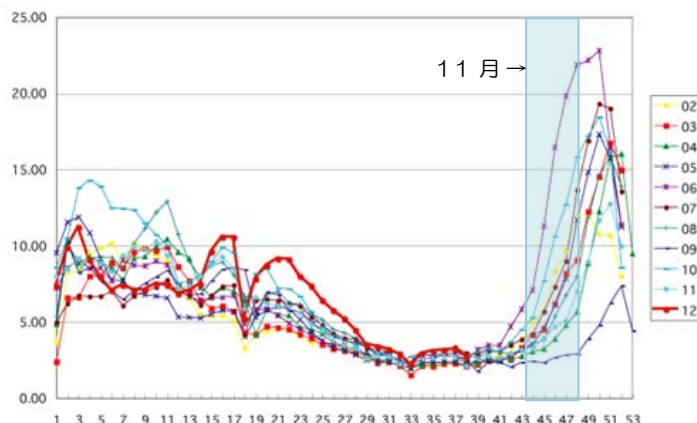


図1 全国の定点当たり感染性胃腸炎患者報告数 IDWR 過去10年との比較グラフ(週報)(38週現在)より

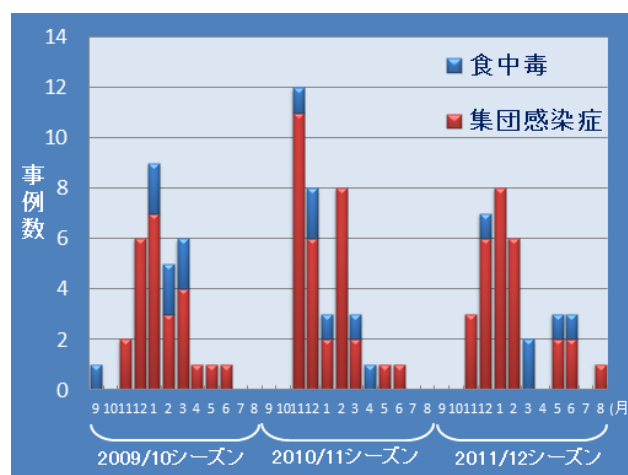


図2 ノロウイルス月別陽性事例数(当センター検出分) (2009年9月～2012年8月)

詳しくはこちらのホームページをご覧ください。

〈厚生労働省ホームページ〉ノロウイルスに関するQ & A

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

〈国立感染症研究所感染症情報センターホームページ〉

ノロウイルス感染症とその対応・予防(家庭等一般の方々へ)

<http://idsc.nih.go.jp/disease/norovirus/taio-a.html>

ノロウイルス感染症とその対応・予防(医療従事者・施設スタッフ用)

<http://idsc.nih.go.jp/disease/norovirus/taio-b.html>

(ウイルスチーム 米田 記)

【全数把握対象感染症発生状況（平成24年9月）】

平成24年9月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下のとおりです。

9月報告患者数（平成24年10月24日現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2類	結核	8	11	12	6	2	4	43
3類	腸管出血性大腸菌感染症		1					1
4類	デング熱	1	1	1				3
5類	アメーバ赤痢	1	1	1				3
5類	風しん	1	1	1	1			4

（感染症情報センター 記）



感染症情報センターホームページアドレス

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm